慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	〈身体〉が結ぶ神学と医学のエネルギー概念史の再構成 : ルネサンスから初期近代まで
Sub Title	Reconstruction of the conceptual history of theological energy and medical energy linked by body : from the Renaissance to the early modern age
Author	川村, 文重(Kawamura, Fumie)
Publisher	
Publication year	2023
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2022.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、第一に、17・18世紀の辞書や『百科全書』に記載された、宗教改革期の聖餐論争の中に登場したとされる〈エネルギー派〉というカルヴァンの後継者的宗派の実態を探ることで、この宗派は実在の組織ではなく、反宗教改革派が改革派を非難する際に捏造した虚構であったことが判明した。 第二に、カルヴァンと同時代を生き、異端として処刑されたミシェル・セルヴェ (ミカエル・セルヴェトゥス) の医学的知見に基づいた神学思想において、エネルギーの語が新しい意味を持った概念として用いられると同時に、神学的エネルギー概念から医学的エネルギー概念への転位が見られることを、テクストの分析を通して解明した。 First, this research focused on Calvin's successor denomination, the Energetics, which is said to have appeared in the controversy over the Eucharist during the Reformation period, as described in 17th and 18th century dictionaries and Encycopedie of Diderot and D'Alembert. Investigations revealed that the sect was not a real organization, but a fiction created by the counter-reformers to denounce the reformers. Second, in the theological thought based on the medical knowledge of Michel Servet (Michael Servetus), who was contemporary with Calvin and was executed as a heretic, the word energy is used as a concept with a new meaning. Through the analysis of the text, I clarified that Servais' thought has a transition from the theological energy concept to the medical energy concept.
Notes	研究種目 : 基盤研究 (C) (一般) 研究期間 : 2018 ~ 2022 課題番号 : 18K00109 研究分野 : 思想史
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_18K00109seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ００１０９

研究課題名（和文）〈身体〉が結ぶ神学と医学のエネルギー概念史の再構成:ルネサンスから初期近代まで

研究課題名（英文）Reconstruction of the Conceptual History of Theological Energy and Medical Energy Linked by Body: From the Renaissance to the Early Modern Age

研究代表者

川村　文重（KAWAMURA, Fumie）

慶應義塾大学・商学部（日吉）・准教授

研究者番号：４０７５９８６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、第一に、17・18世紀の辞書や『百科全書』に記載された、宗教改革期の聖餐論争の中に登場したとされる〈エネルギー派〉というカルヴァンの後継者的宗派の実態を探ることで、この宗派は実在の組織ではなく、反宗教改革派が改革派を非難する際に捏造した虚構であったことが判明した。
第二に、カルヴァンと同時代を生き、異端として処刑されたミシェル・セルヴェ（ミカエル・セルヴェトゥス）の医学的知見に基づいた神学思想において、エネルギーの語が新しい意味を持った概念として用いられると同時に、神学的エネルギー概念から医学的エネルギー概念への転位が見られることを、テクストの分析を通して解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
エネルギーという語をめぐる神学上の理論的布置や、医学的なエネルギー概念の形成過程を通して、神学と医学の結節点となる身体エネルギー概念がルネサンスと初期近代の間でいかに形成されていったかを具体的に分析・解明することによって、複眼的に捉えられたエネルギー概念史の新機軸を打ち立て、従来の科学史の〈正史〉からこぼれ落ちた思想的変化に着眼することで、エネルギー概念史の定説を覆す視点を提供する。さらに発展的に、古代ギリシアから現代までの長期的スパンの中での当該概念形成史の再構築、ひいては西欧の知の歴史全体の描出に寄与する。

研究成果の概要（英文）：First, this research focused on Calvin's successor denomination, the Energetics, which is said to have appeared in the controversy over the Eucharist during the Reformation period, as described in 17th and 18th century dictionaries and Encycopedie of Diderot and D'Alembert. Investigations revealed that the sect was not a real organization, but a fiction created by the counter-reformers to denounce the reformers.
Second, in the theological thought based on the medical knowledge of Michel Servet (Michael Servetus), who was contemporary with Calvin and was executed as a heretic, the word energy is used as a concept with a new meaning. Through the analysis of the text, I clarified that Servais' thought has a transition from the theological energy concept to the medical energy concept.

研究分野：思想史

キーワード：神学的エネルギー　医学的エネルギー　聖餐論争　ミシェル・セルヴェ　ミカエル・セルヴェトゥス　血液肺循環　神霊論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

古代ギリシア語のエネルゲイア（現勢態）を語源とするエネルギーという語は、先行研究によれば、仕事量を意味する物理学エネルギーの語義が 19 世紀に加わるまで、とりわけルネサンスから 17 世紀の間には自然学的語義が不在だったとされてきた。しかし、歴史的に空白とされたこの時期に、自然学の著作の中で、エネルギーの語が動力源に変換可能な物理学的力とは異なった別の意味合いで使用されていたことが確認できる。エネルギー概念形成史の書き換えに取り組んできた執筆者は、本研究を開始する前に、エネルギー概念が近代以降、物質の能動的内在原理を意味してきたことをすでに総論的に明らかにしている。そこで、本研究開始時に、ルネサンス期に、能動的内在原理としてのエネルギー概念が神の超越論的エネルギーから自然の物質的エネルギーへと転位していった過程に着眼することにした。

２．研究の目的

西欧世界の知の交流の中で、神学・医学の横断的な当該概念形成過程の再構成を目指す本研究は、物質に力を内在させることを峻拒するデカルト機械論によって力学の分野からエネルギーの語が徹底的に排除される 17 世紀以前に、神学と自然学が結節する局面においてエネルギーの語がどのように扱われてきたかを追究するために、どの思想家の著作を研究対象と定めるかを検討することが急務であった。それと同時に、本研究は、各論的事象として、宗教改革期にカルヴァン派の一派であった〈エネルギー派〉によるキリストの身体エネルギー概念のもつ思想的革新性を考察することを目指した。それによって、ルネサンスから初期近代への転換期において当該概念が神学から自然学へ転位していく局面を解明することが期待されるためである。研究を遂行するなかで、カルヴァンの教義と対立し、カルヴァンに処刑された、神学者であり医学者であったミシェル・セルヴェの神学に関する著作には、新しい意味を付与されたエネルギーの語が登場し、しかも神学と医学を連関づけたエネルギー概念が看取できることを発見するにいたった。そこで、彼の神学思想を解明することによって、エネルギーの語が超越的なものと物理的なものを連接させる鍵概念とされていることの論証が目指された。こうして当該研究は、自然学においてこの語が力の問題系の重要概念として定着する過程の端緒を明らかとにすることを目的としてきた。

３．研究の方法

本研究では、大思想家の著作からエネルギーの語を抽出して峰々をつないでいくような大作家中心主義的かつ単純な通時的手法を採らない。身体エネルギー概念が神学から自然学へ転位する過程を如実に反映しているにもかかわらず、今まで重視されてこなかった思想を取り上げて、転位・波及の実相に迫る共時的視点を基にして、文献解釈研究を行う。

①〈エネルギー派〉の思想的発生と転位過程を基点とする研究

a．聖餐の思想的位置づけをめぐって、カルヴァンとメランヒトンの教義から派生したとされるエネルギー派が生まれた歴史的・思想的背景を総合的に把握する。

b．聖餐論争のなかで、なぜエネルギーの語が争点となったのか、語意分析とキリストの身体性理論の神学・修辞学・哲学的分析を行う。

② ミシェル・セルヴェの反三位一体論におけるエネルギー概念の解明研究

a．カルヴァンによるエネルギーの語の用法とミシェル・セルヴェの用法を比較することで、後者の独自性を明らかにする。

b．ミシェル・セルヴェの解剖学的発見とされる血液肺循環と彼独自の神霊論との連関を解釈することで、そこにエネルギー概念がどのように関わっているか明らかにする。

４．研究成果

① 宗教改革期に一時的に登場したと後世の辞書に記されてきた、カルヴァン派系列の〈エネルギー派〉が聖餐論争の神学的文脈の中でエネルギーの語の用法の点で画期的だったとすれば、それはどの点にあるかを考察し、以下の 2 点の研究成果を得ることができた。

i.神性と同時に人間性を持った両義的存在たるキリストの身体性が顕現される場としての聖餐において、パンと葡萄酒がキリストの超越性と物質性を結びつけている。その際、エネルギー派はパンと葡萄酒がキリストへと実体変化するのではなく、また単なるキリストの象徴に過ぎないとも考えず、キリストの身体のエネルギーあるいは力（徳）そのものだと主張した。その聖餐論をめぐる教義とエネルギー概念が示す射程には相当な広がりを持つことを明らかにした。

ii.このエネルギー派の教義的系譜を明らかにするために、同時代の著作や後代の辞書を参照し、その起源と行方を辿った。それによって、エネルギー派は実はカルヴァンの後継者グループではなく、何らかの実体のあるセクトでもなく、エネルギー派的教義を内包したものを危険視する対抗宗教改革主導者側によって名付けられたカルヴァンの聖餐論の一側面を指していたという思いがけない発見をするに至った。

② カルヴァンにおけるルネサンス人文主義的医学の影響を整理するために、カルヴァンの自然観に関する研究をフォローしている際に、本研究課題である「神学と医学のエネルギー概念の交差」をその思想の中に体現している宗教思想家兼医学者ミシェル・セルヴェ（ミカエル・セルヴェトゥス）を発見した。彼はカルヴァンの論敵となり、カルヴァンから苛烈な宗教的迫害を受けた人物として名を残しているが、彼の神学思想そのものはあまり注目されてこなかった。しかし、その中に、医学的エネルギー概念の萌芽が見られることをつきとめた。その結果、セルヴェのエネルギー概念は彼の宗教思想において重要性を有しているだけでなく、初期近代に形成されていく物質的あるいは科学的なエネルギー概念の形成を先取りしていたことが明らかとなり、17 世紀から 18 世紀初頭にかけ自然学的エネルギー概念の形成に寄与したライプニッツ やジョン・トーランドのような思想家に間接的な形で影響を与えた可能性があることがわかった。さらに、18 世紀半ばに著されたヴォルテール『諸国民の習俗と精神について』の中で言及されているセルヴェの神学思想を取り上げ、その思想的内実、ヴォルテールによるセルヴェ解釈、18 世紀におけるセルヴェ受容の一側面について考察した。

③ ②の研究成果を踏まえて、セルヴェの主著『キリスト教復位』で論じられた、神霊と血液肺循環によってエネルギー概念が非物質的なものと物質的なものを媒介することの論理と思想的意義の考察を展開した。セルヴェによれば、神霊によって発された神的エネルギーは呼吸を通して身体に入ると、生命を賦与された魂になるが、具体的には、神霊が血液と混合されて生命精気が生成され、その精気を含んだ血液が肺を通過する際に、空気に晒されることで浄化される。呼吸によって生命を賦与する神霊のエネルギーは霊性を帯びながら、何らかの実在性を持つものとして、医学的エネルギーの性質をも帯びた中間的媒体と考えられている。この生命機能の機序を、セルヴェが反駁の対象とした、16 世紀においても依然として強い影響力を持っていた古代の医学者ガレノスの精気生成論と比較することで、セルヴェ医

学の新規性を明確にすると同時に、それが合理的思考を徹底化しようとするルネサンス人文主義的医学の影響のもとで彼の神学思想と医学とが統合されていることを解明した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 川村文重	４．巻 38
２．論文標題 神学的エネルギーから医学的エネルギーへ（３）　－ミシェル・セルヴェ『キリスト教復位』（1553年）における 生理学的神霊論	５．発行年 2023年
３．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要．人文科学	６．最初と最後の頁 89-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村文重	４．巻 37
２．論文標題 「神学的エネルギーから医学的エネルギーへ（２）－ミシェル・セルヴェ『三位一体の誤謬について』（1531年）と『キリスト教復位』（1554年）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要人文科学	６．最初と最後の頁 127-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村文重	４．巻 73
２．論文標題 「ミシェル・セルヴェの〈自然についての神学〉－ヴォルテール 『習俗試論』の一節を読む」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要フランス語フランス文学	６．最初と最後の頁 21-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村文重	４．巻 36
２．論文標題 神学的エネルギーから医学的エネルギーへ（１）－ミシェル・セルヴェ『三位一体の誤謬について』（1531年）におけるエネルギー概念	５．発行年 2021年
３．雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要．人文科学	６．最初と最後の頁 141-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村文重	4．巻 69
2．論文標題 「キリストの身体と神秘なるエネルギー－聖餐論争期に現れた〈エネルギー派〉の同定を通して」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『慶應義塾大学日吉紀要フランス語フランス文学』	6．最初と最後の頁 27，48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 川村文重
2．発表標題 ミシェル・セルヴェ論合評会報告
3．学会等名 『百科全書』・啓蒙研究会
4．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関